

10月～12月期

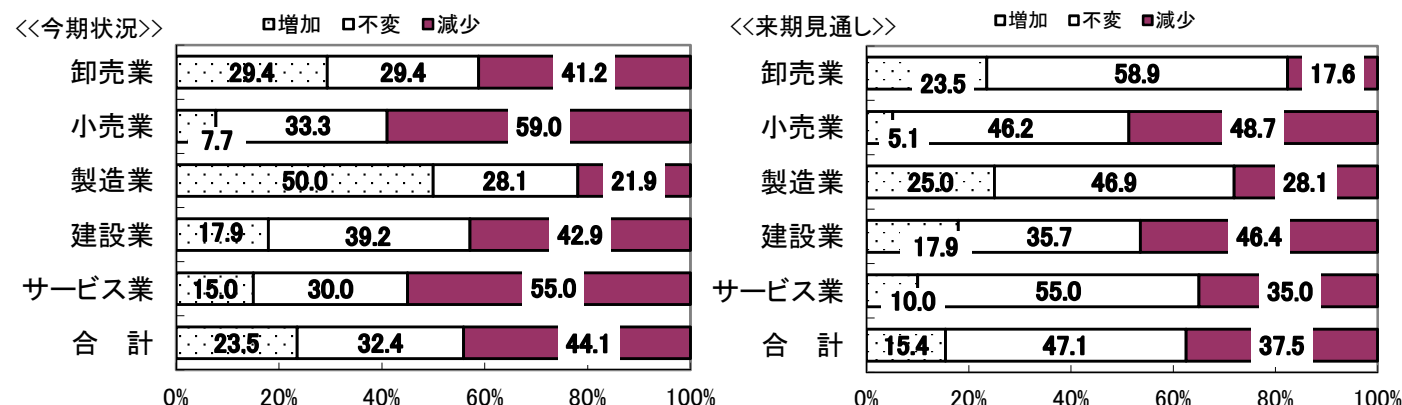
会員景況調査結果

速報版

調査協力企業用

- ◇ 調査対象 小千谷商工会議所の会員企業の中から、卸売業・小売業・製造業・建設業・サービス業を対象に実施した。
- ◇ 調査対象期間 平成29年10月～12月期の実績及び平成30年1月～3月期の見通しについて調査した。
- ◇ 回収状況 140 企業中、136 企業より回答を得た。(回答率 97.1 %)

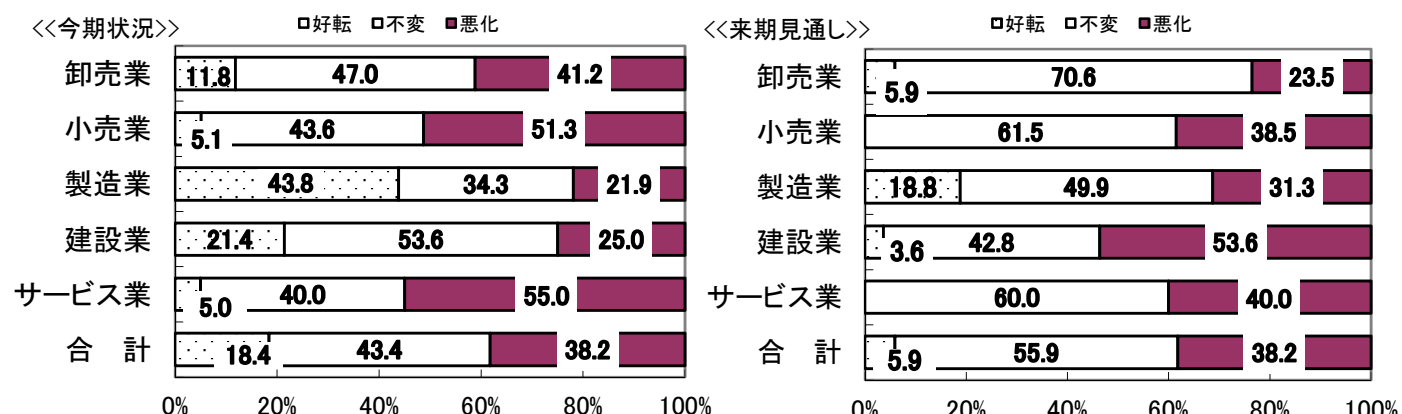
1. 売上高の動向(対前年同期比)



全業種平均DI値は▲20.6%となり、前回調査に比べてマイナス幅は4.9P拡大した。小売業、建設業、サービス業ではDI値のマイナス幅が拡大した。卸売業はマイナス幅が縮小し、製造業は4期連続してDI値がプラスとなった。

小売業のDI値は▲43.6%で一番の売上減少見込みとなり、次いで建設業がDI値▲28.5%、サービス業が▲25.0%となった。唯一、卸売業でDI値がプラスとなったが、依然として「不変」回答割合が高くなっている。

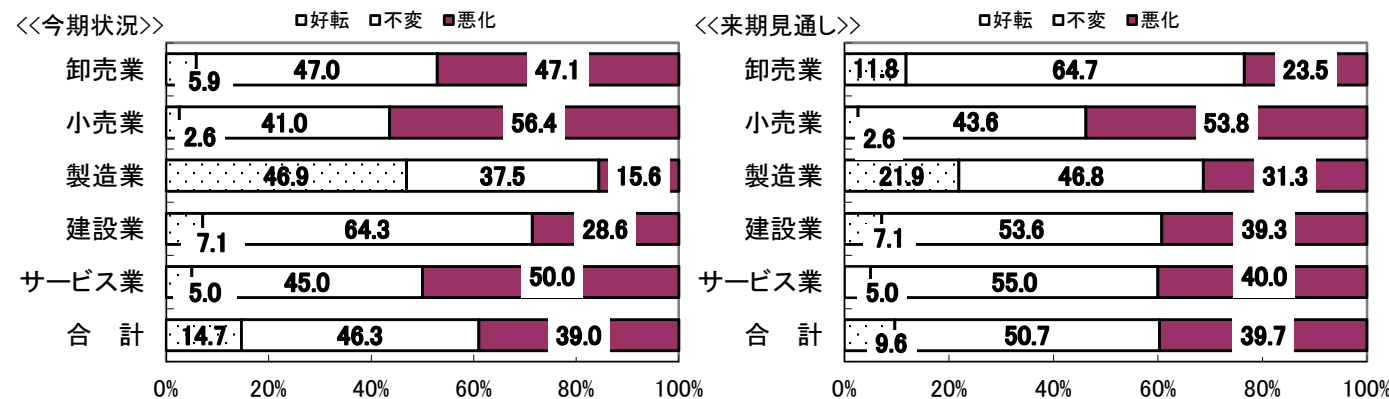
2. 経常利益の状況(対前年同期比)



全業種平均DI値は▲19.8%となり、前回調査に比べてマイナス幅は1.9P拡大した。製造業を除く4業種でDI値がマイナスとなった。建設業はDI値がプラスからマイナスへ転じ、小売業はマイナス幅が若干縮小した。製造業は2期連続してDI値がプラスとなった。

全業種でDI値はマイナスとなり、小売業、サービス業では「好転」回答割合が0%となった。今期好調が見られた製造業でもDI値が▲12.5%の見通しとなり、好調が落ち着く予感。

3. 自社の業況(対前年同期比)



全業種平均DI値は▲24.3%となり、前回調査に比べてマイナス幅は3.4P拡大した。小売業はDI値が▲53.8%で前回調査に引き続き全業種で一番の悪化傾向となり、次いでサービス業がDI値▲45.0%、卸売業が▲41.2%となった。製造業はDI値が31.3%でプラス幅が24.8P拡大した。

卸売業、小売業、サービス業では今期状況と比較してDI値のマイナスは縮小される見通しだが依然として「好転」回答割合が少ない。建設業はDI値のマイナス幅が拡大し、製造業はDI値がマイナスへ転じる見通し。

4. 業種別概況

業種	業種概況
卸売業	2017年は人手不足が続き業務を回していくのに苦労したとの声。冬期間は降雪等の影響で電気、ガスの光熱水費がかかり、利益を出しづらい。今年の積雪の状況を見守りたいとの声が寄せられている。
小売業	小千谷病院が移転してから極端に商店街の通行人、来客数、夜の人通りが減った。病院跡地の利用が始まり、少しでも賑わいが戻ることを願うとの声。忘年会シーズンで、年末は良好だった。一方で何年も同じ客単価となり、少しでも採算がとれる様にパートを減らして営業しているとの声が寄せられている。
製造業	工作機械業界の好景気により、市内関連企業でも受注額が増加しているとの声。売上アップより、利益確保に重点を置き、工程や残業を改善して増益体質を目指すとの声。業界によっては全然仕事がないとの声が寄せられている。
建設業	水害による災害工事で一時的に受注増との声。工事案件が増加していたが人手不足のため、受注を断ったとの声。降雪前は多忙を極めたが、今後は降雪次第で仕事量が決まる。冬期間の建設関係は官民ともに仕事が少ないとの声。大手メーカー進出で地元業者の新築物件数が減少していくとの声が寄せられている。
サービス業	自動車の新車販売は大手メーカー2社の無資格検査員の問題などで販売台数が減少傾向との声。車両整備の需要は前年並みに推移しているとの声が寄せられている。

DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向の回答割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向の回答割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)$$

次回調査は3月の予定です。今後ともご協力をお願い致します。